COSSS report

Chuetsu Organization for Safe and Secure Society.

公益社団法人 中越防災安全推進機構　機関紙
2016　冬
VOL. 13

冬だからこその魅力、新発見。

―冬眠するパンダの置物―

川口運動公園や震央メモリアルパークなど冬のメモリアル回廊の様子を取材しました。

contents

P2-3 特集①
雪のメモリアル回廊をめぐる
かんじきを履いて雪深い回廊施設をめぐりました

P4-5 特集②
インターン生、初めての冬
イナカレッジの長期インターン生が初めて迎えた冬の生活

P6 シリーズ防災教育の現場から 第６回「こども防災未来会議 2015 防災かべ新聞コンクール発表会・表彰式」
P7 まちからスタッフ活動日記
P8 シリーズ４コマまんが「山古志の冬」
P8 インフォメーション、施設のご案内、会員募集

冬のメモリアル施設は一体どうなっているのか…

かんじきを履いて雪のメモリアル回廊をめぐってみました！

9:00 集合 川口きずな館

まずは雪の積もりぐあいを眺めつつコーヒーで一息。今年はきずな館開館以来最も雪が少ないそう。説明書を読みながら真新しいかんじきを装着し、運動公園の珍名物「こわすぎるパンダの置物」を目指し、いざ出発！

野生動物の足跡しかない新雪の上をひたすら歩きます。かんじきのおかげですいすい進めます！これはすごい！

難なく辿り着いたものの、雪がこんもりと積もって姿が見えず、手で掘り出しやっとご対面！冬のパンダはカッチカチに固まっていました。

◀冬以外はこんな感じ。怖い！

10:00 発

＼川口の黄色いバスで出発／

10:10 着

震央メモリアルパーク

◀震央展望小屋からの眺め

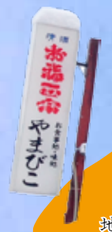
震央の棚田の持ち主である川口木沢にお住まいの星野秀雄さんと合流。秀雄さんを先頭に震央を目指して遊歩道だったはずの雪道をくだります。360度真っ白な世界を一列になって歩いているとここは一体どこなんだろうという気持ちに。

かんじきのおかげで5分もかからずあっさり震央柱に到達！なんと、柱は雪に埋もれることなく顔を出していました！

秀雄さん、ありがとうございました！

10:45 発

食堂やまびこ 12:00 着



地元の方から「味がいい」と評判の食堂。カツカレーが人気とのこと。柔らかくジューシーなカツがドーンとのり、その隣にはパスタサラダもついた満足の一皿でした。真冬で客足がないのかと思いきや、続々とお客さんが来店していました。山古志弁当も提供されています！

住所：山古志種苧原 3244-3
電話：0258-59-2980（FAX 併）

アルパカ越冬施設 11:45 着

山古志のアルパカたちは、夏の間は油夫集落の牧場に出ています。冬は種苧原集落にある小屋に移動して、まいにち餌をムシャムシャ食べながら静かに春の訪れを待っています。白いアルパカだけでなく黒や茶色、グレーのアルパカもいますよ！

11:50 発

11:10 着

木籠メモリアルパーク

併設の直売所「郷見庵」は冬期休業でしたが、駐車場は除雪がされており楽に駐車できました。水没家屋は雪をかぶっているものの橋からよく見えました。1mほど雪をかぶり途中までしか文字の読めない震災記念碑を眺めたり、木籠橋の欄干にずっしりと積もった雪を川に落として除雪したりしました。

11:25 発

取材を終えて

おらたる 峠上

雪のメモリアル回廊散策では、川口運動公園、震央メモリアルパークの二か所で慣れないかんじきを使った散策となりました。震央メモリアルパークで雪に埋まった震央柱を見れたことはとても新鮮でした。今回は普段見る機会の無い雪のメモリアル回廊を見る良い機会だったと思います。今回のような企画に取り組み、もっと多くの人にこの機関紙を見てもらえたらと思います。

完全防備で雪の中に飛び込むと自然と誰でも童心に返りますね。木籠橋から川へ雪の塊を落とす「雪おとし」は爽快感がやみつきになるこの冬おすすめの最新アクティビティです。くれぐれも体ごと落ちないように気をつけて、是非お試しあれ。

きおくみらい 松井

「雪の中の震央の標柱を掘り出したい！」と思っていったけど、雪が少なくて頭出てました・・・。それでもこれは、冬にしか見ることの出来ない光景ですね。そんな新たなホワイト・メモリアル回廊ツアーいかがでしょうか。

ムラビトDC 阿部

雪国に嫁いで20年になりますが、かんじきは初体験。紐の結び方がゆるかったため途中で片方脱げてしまいそのまま歩くことに。かんじき装着の右足は前に進むことはできても長靴だけの左足はズボズボとひざのあたりまで埋もれてしまい尻もち連発。その違いを実感したところです。昔の人はこうしてご近所さんと協力して一歩一歩雪道の道をつけ家や村を守っていたのだなぁと中越の雪文化を垣間見た貴重な体験でした。

そなえ館 高野

まわったところがどうだったかというよりも、こういった肩の力の抜けた企画にスタッフが前向きに取組んでいたことの方が自分にとっては価値のあることでした。機関紙の紙面をつくるにあたり、事業の報告だけではなく、特集のために何かやってみるというチャレンジが実現できて良かったと思います。

事務局長 諸橋

かんじきを履くのが初めてで、雪を踏みしめて歩く感覚がとても新鮮でした。雪が降るとなかなか入れない川口運動公園や震央を歩き、普段とは違う自然の魅力を感じました。これを機に雪国ならではの魅力や、いつもとはまた違うメモリアル回廊の姿をもっと発信できる取組みを増やしていけたらいいなと思います。

きずな館 中村

冬のメモリアル回廊 おすすめスポット

道の駅あぐりの里

川口で採れた新鮮野菜や旬の山菜、地域の達人が制作した手工芸品、農産物加工品を販売しています。

電話：0258-89-4550

えちご川口温泉

信濃川と魚野川の合流地点や川口の雪景色を眼下に望む大露天風呂からの眺望をご堪能下さい。

電話：0258-89-4511

おらたるカフェ

コーヒーはもちろん、おらたる人気NO.1と言われている「おらたるクッキー」とのセットも好評です！

電話：0258-41-1203

古志高原スキー場

リフトは1基ですが、初級～中,上級者コースを完備。スノボも全面滑走OK！気軽に滑りに来てください。

電話：0258-59-3500

インターン生、初めての冬

春からスタートした今年度の「にいがたイナカレッジ」長期インターン生の活動も、いよいよ冬に突入しました。農作業も落ち着いた冬の時期、各地のインターン生は、何をしているのか？ちょっとご紹介します。
にいがたイナカレッジのホームページでインターン生が随時活動レポートしています。ぜひご覧ください。
http://inacollege.jp/

※カッコ内はインターン先の名称

「解禁日にカモ猟」2016.01.05

山縣洋之　（yamakawa_sun）

柏崎のインターン生である間くんと一緒に猟へ。彼も罠の免許を持っており、鉄砲もこれから持つとか。日の出は前日と同じ場所でカルガモをGET。その後、キジを狙いに行き、これでもか！！ってほど沢山出会ったのですが撃っても撃っても当たらない。下手な鉄砲数撃っても当たりません。間くんにはどうやったらこんな良い距離でも外せるのか教えてあげました。

夜は初日に獲れたマガモを料理低温調理でバルサミコとベリーを効かせたソースで食べました。噛むとじゅわっと肉汁がクチの中に溢れてくるほどびっくりするほどジューシーで肉の旨味たっぷりでした。鴨の旨味はたまりません～

「秋～冬　ものづくり編」2016.01.25

堤さゆり　（荻ノ島）

教わったり調べたりしながら、いろいろ作っています。初めて作るものばかり。全部気に入ってます。農村でのものづくり、奥が深いです。材料を用意するところから自分でできるようになりたいなー、いつかは道具を揃えて場所も整えていろいろ作りたいなー、なんて考えています。

秋に区長さんと一緒にあけびのつるをとってきました。本当は春にとるそうです。
まっすぐ下をはうものが見つからず、かたいのを材料にしていますが意外と編めます。

「1月　振り返り」2016.01.29

野中克哉　（中立山・中原 懐かしい22世紀委員会）

今月はほぼ引きこもり状態でしたが、別にゴロゴロしていたわけではなく色々と来年に向けて動いておりました。

やっていたことのひとつ、百姓としてHPを作りました。
http://katsuyanonaka.com/
よろしくお願いします！

「酒蔵修行日記・麹作り」2016.01.21

レベイエ 麻里子　（下塩農産・越銘醸）

麹の仕上がりは、最終的なお酒の出来を大きく左右するため、酒造りの中でもとっても重要な工程。洗米したお米を甑（こしき）と呼ばれる大きな蒸し釜の中で蒸し、蒸気がもくもく。蒸しあがったお米は、台の上に広げて冷まします。

適温になったら麹室の中に運び、麹台の上に広げた蒸米に種麹をまきます。種麹は米粒に抹茶をまぶしたような様相。種切りと呼ばれるこの作業。テレビ等で見たことある方も多いのではないでしょうか？種切りの時はなぜだか息を止めてしまいます。そんな緊張感に満ちた空気の中での作業なのです。

こうして種を蒔いた米麹が完成するまでの間にも、いろいろ仕事があります。『切り返し』です。全体の温度と湿度が均一になるように、米の塊をいったんほぐし、そしてまた寄せてまとめて寝かせます。蔵の気温はほぼ外と同じ＝寒い！のですが、麹室の中は３５度以上。汗だくです(^;; この後、麹は箱に移され、さらに何度か手を入れて、約５０時間後・・・完成？！

出来上がった麹は、ほかほかあったかくて、栗みたいなほっこり甘い香り。

「季節はすすむ」2016.02.02

松岡沙知　（地域活性化ネットワークとちお）

３０何年ぶりのドカ雪が降って、テンヤワンヤ！車庫が大変なことになりました。どーん！！（雪よけの道具は車庫の中！泣）

スコップで雪をほりほり。何とかシャッターが開き。。途中でお昼ごはんを食べに戻りつつ、半日かかって。。車救出！例年に比べたら少ないそうですが、一人の雪かきは心が折れますね。。おばあちゃんたちはすごい。

あらためて、雪国で生きる人の柔軟性と生きる力を知りました。

「豊作のお祈り」2016.01.12

水沼真由美　（千年の市 じろばた）

思っていたよりも雪は少ない十日町。せっかく雪国に来たのだからもうちょっと降って欲しいな、と思いながら過ごしております。

2016年最初の行事、町内のどんど焼きに参加しました！ お正月のお飾りを持ち寄り焼きます！その火でするめを焼いて食べたりします。子どもたちはマシュマロを焼いておりました（笑）キャンプファイヤーみたいでした(笑)今年の無病息災と五穀豊穣をお祈りしました！振る舞いの手作りの豚汁と地酒を使った甘酒は絶品！

シリーズ「防災教育の現場から」第６回 こども防災未来会議 2015 防災かべ新聞コンクール発表会・表彰式

平成 25 年度末に完成し、新潟県下の小中学校および関係機関に配布された「新潟県防災教育プログラム」。これをきっかけに、学校教育現場での防災教育の取組みが定着し継続して実施されるよう、学校や地域の実状に合わせた「自校化」に焦点を当て、県内の小中学校での先進的な取組み事例を、シリーズ「防災教育の現場から」として当機関紙で毎号紹介していく。

「こども防災未来会議 2015 防災かべ新聞コンクール発表会・表彰式」実施概要

日時：平成 28 年 1 月 30 日（土）10：20 ～ 15：30　参加者数：203 名（小学校 8 校、中学校 2 校。引率者・保護者も含む）

会場：長岡震災アーカイブセンターきおくみらい　主催：（特活）ふるさと未来創造堂、（公社）中越防災安全推進機構

去る平成二八年一月三〇日、「子ども防災未来会議二〇一五」が開催された。昨年新潟日報社主催の「にいがた子どもサミット」の一環として行われた「子ども防災かべ新聞コンクール」の趣旨を継承し、子どもたちの日頃の学びの成果を発表する場として、今年度新たにNPO法人ふるさと未来創造堂と当機構が主催となって開催したイベントである。

県内の小中学校から六五点の作品応募があり、うち一次審査（一月中旬）を通過し入賞した作品は、小学校中学年四作品、高学年五作品、中学校二作品の計十一作品であった。

学習意欲、構成力、表現力、企画力を審査し、入賞した学校からは当日の発表会で、これまでどんな学びをしてきたのか、また今後にどんなことを生かしていきたいのかを中心に、口頭で発表をしてもらった。発表時のプレゼンテーション力も審査対象とし、総合的な審査を経て、部門ごと（小学校中学年、小学校高学年、中学校）にグランプリが決められた。

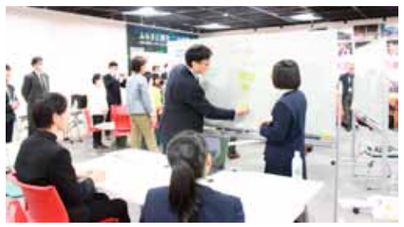
またお昼には、入選校である魚沼市立堀之内小学校の児童が、防災学習の一環でメニュー考案した「にじいろ弁当」を参加者で食し、午後の分科会のグループメンバーで交流を図った。この弁当は、災害時に活用できるペッククッキング（ポリ袋とカセットコンロでの真空調理法）で作れるメニューで構成されており、堀之内小六年生が考えた五五品から選りすぐりの六品が入ったものである。参加した他校の子どもたちからも「美味しかったので家でも作ってみたい」「お家の人にも教えてあげたい」と大変好評であった。

午後の分科会はAとBの二つに分かれて行なった。A分科会は部門別に分かれ、各グループで学校教諭と災害の専門家の二人の先生からファシリテーターとなっていただき意見交換をした。またB分科会は地震に関する映像を見た後、学校・学年混合のグループに分かれ六人グループ×一一班での活動を行った。いずれの分科会も「災害発生時に自分で自分の命を守ることができるか」をテーマとしたグループワークであり、子どもたちはかべ新聞作成の過程で防災について自ら深く学んできていることもあって、ワークに熱心に取り組み、活発に意見交換がなされていた。

各分科会で出た意見を全体で共有した後、分科会の意見を集約して中学生四人に「子ども防災未来宣言二〇一五」を考えてもらった。出されたメッセージは「力を合わせて準備をして自分の命を守る」であり、新潟県から世界に発信する宣言がその場で参加者全員から承認され、「子ども防災未来宣言」として採択された。

様々な自然災害を経験している新潟県は、災害経験から得られた知見、教訓を次世代に語り継いでいくことで、安心安全な地域づくりへつなげていく必要がある。今後も中越メモリアル回廊を活用しながら、子どもたちの主体的な姿勢を育み、学習意欲を高めるような工夫を継続させていきたいと考える。わくわくとした学びの場を提供していくことで、教職員や保護者をも巻きこんだ、学校と地域が連携した防災教育へとつながるのではないかと考える。新潟県防災教育日本一への挑戦は、まだ始まったばかりである。

（地域防災カセンター　関谷 央子）



※前回記事で、土田直美さんの所属名が間違っておりました。正しくは「新潟県長岡地域振興局健康福祉環境部」です。お詫びして訂正いたします。

まちからスタッフ活動日記

中越沖地震メモリアル併設の、かしわざき市民活動センターまちからがオープンして３か月がたちました。
日々の様子をまちからスタッフがご紹介します。

昨年十一月五日にオープンした「まちから」は、歴史的建物であり、中越沖地震発災と同じ平成十九年七月に国の有形文化財に登録されました。

オープン間もなく、昭和十三年（一九三八年）竣工のこの建物の設計施工をした清水組「現在の清水建設（株）」東京本社アーカイブ担当者が来館され、「実際に内装の細部にわたるデザインの素晴らしさや、仕事の良さを実感できたことがなによりも嬉しかった」とおっしゃっていました。当時としては大変珍しいモダンな洋風建築で、「白亜の殿堂」と呼ばれましたが、戦時中は疎開してきた帝国石油本社の事務所として使用され、外壁に迷彩色として墨が塗られた時代もあったそうです。戦後は、成人式、ミス新潟選定大会、ダンスパーティー、映写会、歌謡ショーなどが開催され多くの市民が楽しみました。

先日、来館者の方から「毎日、文化財の建物で働けるなんて幸せですね」とお声をかけていただき誇らしいかぎりです。

公会堂様式のエントランスホールはかなり広く、床、壁、柱は人造大理石です。冬は寒々しく殺風景に感じます。少しでも温もりあるエントランスホールにと季節ごとの展示も行っております。十二月は柏崎公会堂として竣工七十七周年祭、クリスマスツリー、年末・年始はお正月飾り、一月は天神さま、とスタッフで知恵を出しながら、楽しみながら、市民の方のご厚意で展示品をお借りしたり、一緒になって、ご来館者にも楽しんでいただいております。

二階講堂では三十二年ぶりとなる水球のリオデジャネイロ五輪出場を決めた男子日本代表で活躍したブルボンウォーターポロ柏崎のメンバー四人が凱旋し、五輪出場権獲得の報告記者会見も行われ多くの市民とともに祝いました。地下シアターの一角に「備え」をテーマに（株）ブルボンさんのミネラルウォーター、保存用ビスケット等も展示しています。平成七年一月十七日阪神淡路大震災と（株）ブルボンさんのミネラルウォーター生産開始日が偶然重なり初生産したミネラルウォーターは、いち早く被災地に届けるためにラベルも貼らない状態で急遽支援物資として送ることになったそうです。大きな災害にも関わりを持つ地元企業とも連携を図っています。頑張れ！ブルボンウォーターポロ柏崎！

まずは、「まちから」が「自由に集い」「交流し」「つながりあう」場所であることを知っていただくことから始めております。Facebook（フェイスブック）の発信もその一つ、一日一回の投稿はなかなか難儀ですがマネージャーに尻を叩かれ頑張っております。もちろんメモリアルとしても来館者のみなさまから中越沖地震の経験、記憶をお聞きし、教訓を発信しております。

次年度は自主防災、防災教育、語り部プログラムのチャレンジ年でもあります。今は、せっせと種まき中でございます。

一階中越沖地震情報ルームでは新潟大学のみなさんが、フィールドワークで来館され即席教室として授業を行い、地下シアターでも柏崎市教育センターの教員研修（震災メモリアル活用講座）が行われました。大学の授業や教員の研修などの利用も可能です。

そして「まちから」で忘れてはならないのは高橋忠平さん、サワさん夫妻です。シンガポールで群を抜く日本人商人となった忠平さんは、私財の多くを故郷柏崎の教育、社会活動に投じました。柏崎公会堂は建設費として当時柏崎町に贈った十七万円（現在価格約四億円）の寄付金で建てられたものです。

七十七年の時を経て「まちから」として生まれ変わっても、高橋ご夫妻の大切な思いである、市民が集い交流する場所となり、市民力を発信する拠点でありたいと思います。

（地域活動サポートセンター柏崎
まちから スタッフ　藤澤 京子）

追記：まちからには二本の桜の木があります。市内で二番目に早く咲くそうです。この原稿は雪景色の中で書いていますが、綺麗な桜をみなさんと楽しむ日を今から心待ちにしています。

cosss report VOL.13 - 2016 冬号 - 平成 28 年 2 月発行　発行 / 公益社団法人 中越防災安全推進機構　cosss report 編集委員会　新潟県長岡市大手通 2-6 フェニックス大手イースト 2F　TEL 0258-39-5525　FAX 0258-39-5526　E-mail　info@c-bosai-anzen-kikou.jp http://c-bosai-anzen-kikou.jp/

≪インフォメーション≫

【「ボランティアが地域を変えた、地域がボランティアを変えた」3 月下旬 冊子発刊】

中越メモリアル回廊では復興 10 年で折り返しの今年から、改めて震災時の経験・教訓をさらに深堀し、その成果を「中越」から配信する研究会を、若手スタッフを中心に立ち上げました。今年度のテーマは「災害ボランティア」。被災地域の住民と災害ボランティアとの関係性について、また今後の被災地での災害ボランティアとの付き合い方「受援力」について考察しました。この研究・調査を冊子にまとめ全国に向け配信します。

【インターン生活動報告会『それぞれの旅立ち～なぜ、若者は農山村を選んだのか？～』開催！】

ムラビト・デザインセンターでは、中越地震からこれまで培った様々な地域づくりのノウハウをベースに、地域づくり・産業・ムラの暮らしなどを学んでいただくインターンシップ事業≪Ｉターン留学『にいがたイナカレッジ』≫を 2012 年度からスタートしました。今年度あらたに８名のインターン生が卒業を迎え、このうち６名がその後も地域に定住するという道を選びました。

若者は、何を目的に農山村にやってくるのか、そこで濃密な１年間を過ごし、彼らは何を感じ取って、これからどのような人生を歩み始めるのか。インターン生の報告とともに、今後“都市から農山村へ”の若者の動きを加速化させていくために、農山村がより元気になっていくために必要なことを考える場として、報告会を下記のとおり開催します。

日時：2016 年３月６日（日）１３：３０～１７：００
場所：長岡震災アーカイブセンター　参加費：無料
※報告会終了後、同施設内で簡単な懇親の場を用意してあります（参加費 2,000 円程度。軽食・ドリンク付）。是非ご参加下さい。

≪中越メモリアル回廊全体図≫

2015 年
11 月 5 日開館

中越沖地震メモリアル施設併設
柏崎市民活動センターまちから

旧公会堂の喬柏園（きょうはくえん）に市民活動センターと併せて整備され、地震の経験・教訓とともに、賑わいの再生に取り組む復興の町づくりを伝えます。
〒945-0066
新潟県柏崎市西本町 3-2-8
開館時間 9:30 ～ 21:00
メモリアル展示は 17 時まで
休館日 毎週火曜日 年末年始
TEL 0257-22-2003
FAX 0257-22-2007

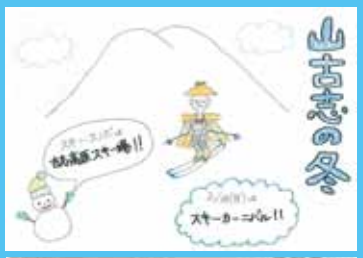
会員募集中！

当機構では、地域防災への取り組みや被災地への支援活動に賛同し、応援して下さる会員の方を募集しています。皆様のご入会をお待ちしています。
参加資格：当機構の活動に関心のある 18 歳以上の方なら、どなたでも参加できます。
会員特典：当機構が主催する研修・講座・イベント等のご案内をいたします。
年会費　：正会員 5,000 円　個人賛助会員 3,000 円　団体賛助会員 100,000 円 (１口以上)
※申込書は当機構ホームページよりダウンロードできます。

公益社団法人 中越防災安全推進機構 機関紙 <COSSS report> 第 13 号 2016 年 2 月発行
発行人：諸橋和行　　編集：畔上凌　阿部巧　井上賢太郎　関谷央子　高野真弓　中村充　松井千明
〒 940-0062　新潟県長岡市大手通 2-6 フェニックス大手イースト 2F 長岡震災アーカイブセンタ - きおくみらい内
TEL：0258-39-5525　FAX:0258-39-5526
E-mail:info@c-bosai-anzen-kikou.jp　http://c-bosai-anzen-kikou.jp/

FREE

おらたるの看板娘がおくる
やまこしの日常４コマ



まんがの作者

やまこし復興交流館
おらたる スタッフ
川上 沙織

施設のご案内

長岡震災アーカイブセンター きおくみらい
〒 940-0062
新潟県長岡市大手通 2-6 2 階
開館時間 平　日 10:00 ～ 18:00
土日祝 10:00 ～ 17:00
休館日 毎週火曜日 年末年始
TEL 0258-39-5525/FAX 39-5526

おぢや震災ミュージアム そなえ館
〒 947-0026
新潟県小千谷市上ノ山 4-4-2 2 階
開館時間 9:00 ～ 17:00
休館日 毎週水曜日 年末年始
TEL 0258-89-7480/FAX 89-7485

川口きずな館
〒 949-7503
新潟県長岡市川口中山 1441
開館時間 10:00 ～ 17:00
休館日 毎週火曜日 年末年始
TEL 0258-89-3620/FAX 89-3621

やまこし復興交流館 おらたる
〒 940-0204
新潟県長岡市山古志竹沢甲 2835
開館時間 9:00 ～ 17:00
休館日 毎週火曜日 年末年始
TEL 0258-41-1203/FAX 41-1204